

1. 本教材について

▼本教材は幕末の尊王攘夷運動家で薩長同盟実現の中心人物であった坂本龍馬を扱った偉人伝である。小学校道徳教科書には明治維新を美化した教材がいくつかあるが、これもその教材のひとつである。坂本龍馬は非常に人気が高く、ドラマでもたびたび取り上げられているので、子どもたちもよく知っているかもしれない。

▼この教材は前半が薩長同盟ができるまでの歴史的背景の説明で、後半は坂本龍馬の行動と暗殺されるまでを説明しているが、まず、この歴史的背景の説明がでたらめである。冒頭、「鎖国から開国へ」という部分では「日本は周りを海に囲まれているため、外国とつきあう機会が少なく、昔から人々は、外国人を異人、夷人とよんでけいかいし、遠ざけていました」と書かれているが、この「昔」というのはいったいいつのことを指しているのか。本当に日本はずっと閉鎖的だったのか。

▼確かに「海に囲まれているため、外国とつきあう機会」は多くはないが、それでも太古以来、多くの人々や文物が渡来してきたと歴史教科書も伝えている。古代に日本が国家としての体裁を整えていく過程には多くの渡来人がかかわっていたし、遣隋使・遣唐使も送っていた。戦国時代の末期から安土桃山時代にも南蛮貿易が盛んで、多くのスペイン人、ポルトガル人が来航していたし、日本人は東南アジアに進出して日本町まで作っていた。

▼鎖国をしていた江戸時代においても4つの口（長崎、対馬、薩摩、松前）を通じて、絶えずオランダ、中国、朝鮮、琉球、アイヌと交易し、朝鮮とは通信使を互いに送り合っていた。江戸時代には外国人が日本を自由に往来することはできなかったが、その代わり多くの若者が長崎に行き蘭学を学んだ。決して一方的に「外国人をけいかいし、遠ざけていた」わけではない。

▼にもかかわらず、なぜこんな書き方をしているのか。それは江戸時代を閉鎖的な時代と印象づけ、明治維新を新しい国づくりのための良き改革として印象づけようとするからであろう。しかもこの教材では、「新しい国」は「天皇を中心とした国」であることが強調され、「天皇」という言葉が8回も出てくる。明治維新による封建社会から近代社会への大きな変革が、幕府中心か天皇中心かという点に単純化されているが、明治維新は江戸時代に300以上の藩に分かれていた地方分権国家がひとつに統一され、中央集権国家になり近代化への一歩を踏み出したことをはじめ、多様な変革を伴うものであった。

▼この教材ではなぜ江戸時代が遅れた時代で、なぜ明治維新が良い改革であったのかは説明されていない。そもそも先に開国しようとしたのは幕府であって、天皇と朝廷は開国に反対する勢力であったことも明確には説明されていない。にもかかわらず、幕府は「いくじなし」とされ、長州藩と薩摩藩は「天皇を中心とした新しい国づくり」をしようとした正義の勢力として扱われ、仲の悪かった両藩を結び付けた坂本龍馬を英雄として称えるのである。

▼この教材だけでなく、そもそも歴史的評価の分かれる人物の偉人伝は、道徳の教科書にはふさわしくないとと思われる。特定の人物の特定の側面だけを取り上げ美化し、子どもたちのロールモデルにさせようとするのは無理がある。坂本龍馬は決して“平和の人”ではなく、討幕派の武器商人として幕末の内戦に深く関わっていたという側面もある。「命の大切さ」を教える道徳教科書で取り上げること自体が不適切である。

2. 本教材を扱う際に、特に注意すべきこと

▼この教材は道徳教材なので、歴史認識そのものを扱うものではない。しかし坂本龍馬のような歴史的人物を扱うにはどうしても歴史的背景の説明を欠かすことはできない。ところがこの教材ではその歴史的背景の説明がデタラメで、なおかつ特定の価値観で語られ歪められている。したがって、この歴史認識の部分を補足することがどうしても必要である。

▼この教材は東京書籍の道徳教科書の中でも後半に教えるようになっているが、歴史学習を終えてから扱うのが適当である。またこの教材はあまりにも内容が偏っているので、授業では扱わないことも考えられる。

3. 指導過程

	子どもの活動や教師の発問等	留意点
導入	○坂本龍馬について知っていることがあるかを聞く。	○ドラマやマンガで人気の人物なのでいろいろ出てくる可能性があるが、ここには時間をかけないようにする。
展開	○最初の2行を読む。「日本は周りを海に囲まれているため、外国とつきあう機会が少なく、昔から人々は、外国人を異人、夷人とよんでけいかいし、遠ざけてきました」と書かれているが、「昔から」というのは「いつ」のことを言っているのか、日本と外国の関係について歴史で習ったことを思い出そうと投げかける。	○小学校では大雑把にしか歴史を習っていないが、弥生時代、奈良時代、戦国時代、江戸時代について、思いつくことを自由に発表させる。班の中で出しあい発表させてもよい。
閉	○残りを読む。開国を決めた幕府を「いくじなしの幕府」と言っているが、開国は間違いだったのかを考えさせる。	○子どもたちからは「開国は間違いではなかった」という答えがほぼ出てくると予想される。
	○開国が間違いでなかったとしたら、開国した幕府をなぜ倒さなければならぬのか。坂本龍馬たちは何が不満だったのかを考えさせる。	○子どもたちからは「天皇中心の国に変えたかったから」という答えが出てくると思われるが、ここをさらに掘り下げると歴史学習そのものになってしまうので、龍馬たちの考えを確認するにとどめる。

ま と め	○開国して新しい国づくりをすることは不可欠だったが、どんな国にするのかはいろいろな考え方があったこと、幕府を倒すために戊辰戦争が起こり、多くの命が失われたこともおさえる。	○幕末については、中学校で詳しく学習すると予告し興味をつなぐ。
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------